

平成26年度第2回青森市自動車運送事業運営審議会 会議概要

【開催日時】平成26年10月10日（金） 午前10時00分～

【場 所】青森市交通部東部営業所 2階 大会議室

【出席委員】柳谷章二会長、小笠原一副会長、小笠原和繁委員、葛西育弘委員、柿崎祥子委員、木戸喜美男委員、工藤健委員、種市勲委員、奈良稔委員、原子睦子委員《計10名》

【欠席委員】秋田谷洋子委員、工藤雅史委員、千葉敏彦委員、仁藤司史委員、藤田誠委員《計5名》

【事務局】公営企業管理者 相馬政美、交通部長 成田謙司、管理課長 岸田耕司、管理課副参事 新宅雅之、同 船橋正明、管理課主幹 横内信造、同 佐々木幸人、東部営業所長 橘昭二郎、西部営業所長 相馬秀廣

【会議次第】

1 開会

2 会議

(1) 平成25年度青森市自動車運送事業会計決算について

(2) 平成26年度の主な事業の進捗状況について

①バス交通戦略の進捗状況について

②ダイヤ改正について

③「一括契約（企業向け）定期券制度」及び「定期券保持者特別運賃制度」の需要アンケート調査について

④新規事業の実施状況について

議事概要

(1) 平成25年度青森市自動車運送事業会計決算について

⇒市民への公表用として作成した「資料①」及び「参考資料」について、事務局より説明

《質疑応答》

○委 員

どの様な方法で公表するのか。今回、示された資料を全て公開するのか。

○事務局

交通部のホームページ上で、お示しした資料を全て公開する。

○委 員

決算の公表資料を見ると、人件費比率が6割を超えている。人件費をかけ過ぎではな

いか。

交通部の状況を職員全員で共有し、全員で経営改善に取り組んでいかなければ、とても黒字化は出来ないのではないかと。

○事務局

交通事業は労働集約型産業（※）であり、人件費比率は高くなる傾向にある。

退職者不補充の継続等、適正な人件費比率を模索しながら経営改善に取り組んできた結果、H25年度は前年度から3.6ポイント改善したところ。

交通部の経営状況については、研修等を通じて全職員に説明しているところであり、職員はその状況を理解しているものと考えている。

今後も、交通部全体で経営改善に取り組んでいく所存であるので、ご理解願いたい。

※労働集約型産業・・・事業活動を営む上で、労働力に対する依存度が高い産業のこと。従業員を多く抱えるため、賃金コストの割合が高い。

(2) 平成26年度の主な事業の進捗状況について

①バス交通戦略の進捗状況について

⇒「資料②」を基に、10月1日から実施している浪岡線の社会実験バス運行等について、事務局より説明

②ダイヤ改正について

⇒「資料③」及び「資料④」を基に、10月1日ダイヤ改正等について、事務局より説明

③「一括契約（企業向け）定期券制度」及び「定期券保持者特別運賃制度」の需要アンケート調査について

⇒「資料⑤」及び「資料⑥」を基に、「一括契約（企業向け）定期券制度」及び「定期券保持者特別運賃制度」のニーズを把握するため実施したアンケート調査結果について、事務局より説明

④新規事業の実施状況について

⇒「資料⑦」、「資料⑧」、「資料⑨」及び「資料⑩」を基に、平成26年度上半期に新たに取り組んだ4事業について、事務局より説明

《質疑応答》

○委員

車いす乗車体験は、良い取り組みだと思う。しかし、障がい者の社会参加に関して、市全体の意識が遅れているように思う。市営バスの運転士・職員の意識向上を進めて欲しい。

○事務局

これまでも、研修等を行ってきているところであり、今後も続けて行く。

○委員

浪岡線は10月から社会実験バス運行となったが、社会実験終了後も路線を維持して欲しい。

○事務局

担当部局に伝える。

○委員

独立行政法人国立病院機構青森病院の利用者も、浪岡線を利用している。青森病院前にバス停を新設できないか。

○事務局

担当部局に伝える。

○委員

「一括契約（企業向け）定期券制度」に関するアンケート結果を見ると、事務量の増加により対応が難しいとの回答がある。購入方法を見直せば、制度導入に可能性があるのではないか。

○事務局

委員の意見を踏まえ、検討していく。

○委員

「定期券保持者特別運賃制度」はアンケート結果を見ても、導入すればかなりの利用者が見込めると思う。

ただし、アンケート結果からも「乗り換えが面倒」との意見が寄せられている。例えば、全ての路線で、青森駅発のバスが朝夕1本だけは有るとか、乗り継ぎ拠点の整備をしてはどうか。

○事務局

事務局としても「定期券保持者特別運賃制度」は、増収策の一つとして来年度にも導入したいと考えている。

乗り継ぎ拠点の整備については、バス交通戦略の中での整備となることから、市長部局と連携しながら、取り組んで参りたい。